

技術情報

第 33 号
～ トマト ～

令和 6 年 9 月 20 日

発行：美深町担い手育成総合支援協議会
下川町担い手育成総合支援協議会
音威子府村営農対策協議会

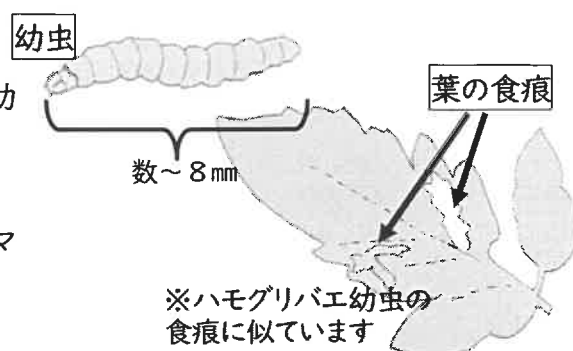
監修：上川農業改良普及センター上川北部支所
TEL (01656) 2-1169 Fax 2-1638

外来害虫「トマトキバガ」が発生しています！

トマト栽培ハウスにおいて、ナス科植物の外来害虫「トマトキバガ」による食害が確認されています。葉だけでなく果実も潜入食害します。繁殖力が非常に高いため、発生には注意が必要です。出荷物への被害果実混入にも注意しましょう。

1 トマトキバガの特徴

- キバガ科の夜行性のがで、被害をもたらすのは幼虫時期です。
- 終齢幼虫の体長は約 8 mm でとても小さく、トマトやピーマン、ばれいしょなどナス科植物やマメ科のインゲンを食害します。
- 葉に侵入すると表面のみを残して薄皮状にし、食害を受けた果実には数 mm の穴があき食害部分は黒く変色、後に腐敗します。付近には黒い糞粒が見られる場合があります。
- 成虫(体長5~7mm)は自力で数 km 飛翔できるため移動範囲が広いです。
- 繁殖力がとても高く、1年に 10~12 回世代交代し、メスは一生で平均 260 個もの卵を産みます。卵~成虫までの期間は 24~38 日程度です(気温が低い時期はさらに延びます)。



2 防除対策

- 発生を拡大させないためには薬剤防除が必要です(下記参照)。
- 被害葉や被害果実はほ場から持ち出し、土中深くに埋設するか、ビニール袋などに入れ密封し死滅させたくて処分する必要があります。
- 冬期間も展帳しているハウスでは越冬する可能性があるため、ハウス内の残渣やイヌホオズキを含むナス科雑草など寄主植物の除去を徹底しましょう。

家庭菜園のナス科野菜にも注意が必要です！

※トマトキバガに登録のある薬剤(一部)

農薬名	倍率	使用時期(収穫前)	使用回数	IRACコード
グレーシア乳剤	2,000	前日	2回	30
ディアナSC	2,500~5,000	前日	2回	5
アフーム乳剤	2,000	前日	5回	6
コテツフロアブル	2,000	前日	3回	13

農薬使用の際は、ラベルを確認し、登録内容を遵守してください。

技術情報

第 34 号
～ トマト ～

令和 6 年 10 月 3 日

発行：美深町担い手育成総合支援協議会
下川町担い手育成総合支援協議会
音威子府村営農対策協議会

監修：上川農業改良普及センター上川北部支所
TEL (01656) 2-1169 Fax 2-1638

トマトキバガ（害虫）の発生ほ場が増えています。

放置せず、次年度に向けた対応を！

外来害虫「トマトキバガ」による食害が広く確認されています。まだ未解明の部分が多いですが、今年の被害茎葉・被害果実は次年度の発生源となる可能性が高く、状況に応じて適切に対処しましょう。

発生状況

- 北海道内では令和5年に初めて飛来が確認され、令和6年は道内各地のハウス栽培トマトで食害が確認されています。特に9月に入り大幅に発生量が増加しています。
- 秋期は積極的な薬剤防除が行われなくなることから、発生が拡大したと考えられます。

成虫は飛翔により自力で数km移動し、風に乗ってさらに長距離移動できます！

防除効果が期待できる薬剤が確認されています！

対策・・・生きた虫が見つからなくなるまで対応する必要があります。

『薬剤防除』と『被害葉や被害果実の処理による発生拡大防止』が基本です。

- 越冬を防止するため、片付け前に収穫終了後の茎葉にも殺虫剤を散布しましょう。薬剤防除にあたっては薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用をしましょう。
- 被害茎葉は、土中深くに埋めるか、栽培終了後片付け前に、ハウスを二重被覆にし、**高温条件下で密閉し死滅させる**などし、残渣から発生が拡大しないような工夫が必要です。
- 除去した被害株などを野外に放置すると周囲に拡散する可能性があります。まだ不明な点が多く、対処方法には検討が必要です。
- ハウス内だけでなく、**外の家庭菜園、ハウス周りの雑草**なども見回り、幼虫は見つけ次第捕殺していきましょう。**注意が必要な作物：トマト、ミニトマト、ナス、ばれいしょなどのナス科野菜**
- 道内では露地での越冬は確認されていないため、可能な限り、**ハウスビニールの除去**をしましょう。冬期間も展張する場合は、ハウス内で越冬する可能性が高いです。繭や成幼虫が付着している可能性のある、ハウス内で使用した資材(マルチや防草シートなど)や雑草の除去を徹底しましょう。育苗時の被害も考えられることから、**育苗ハウスの確認**も行いましょう。

エサが利用できる限り活動を続けます！

9℃で発育が停止しますが、4℃でも数週間は生存できるという報告があります！

農薬使用の際は、ラベルを確認し、登録内容を遵守してください。